

# だんだん

隠岐広域連合立 隠岐島前病院

<http://oki-douzenbyouin-ns.at.web>

\*\*\*今回の内容\*\*\*

1. はじめに
2. 寄り添う看護を  
感じて
3. 各部署紹介
  - ①病棟
  - ②外来
  - ③薬局
  - ④リハビリ
  - ⑤検査室
  - ⑥事務
  - ⑦栄養科
4. おわりに

## 1. はじめに

秋の深まりを感じる毎日となりました。

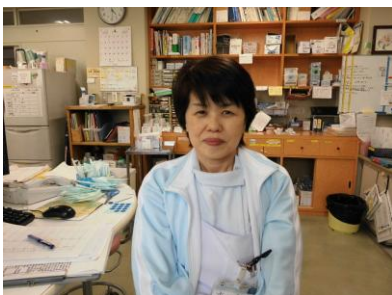
日ごろより隠岐島前病院への皆様の暖かいご支援に心より感謝申し上げます。隠岐島前病院の機関紙「だんだん」も第11回の発行となりました。「だんだん」を、いつもご愛読いただいている皆様にも感謝申し上げます。

当院は今年度より新しい取り組み「離島看護研修としての看護師の受け入れ」を始めています。これは離島医療に興味がある看護師さんに「一年間、島で働いてみませんか？」というものです。現在2名の方が研修中です。離島という環境の中で学びながら、自分の経験を島の医療に生かすことができます。

さらにスタッフが増えたことで、病院は離島医療・地域医療の充実に向けての活動も行えるようになりました。先月、平成25年10月4・5日に島根県松江市で行われた全国国保医療学会に白石院長がランチョンセミナーで「離島医療はおもしろいで」の講演をしました。これに合わせて、私たちは日ごろの活動を各部署から報告しようと、合計10題の発表を行うことができました。全職員76名の小さな病院ですが「日本一の地域医療実践地」になれるようになっていくスタッフの思いを受け止めていただければと思います。

白石院長のいつもの言葉である「隠岐島前病院は変わり続ける」をモットーに、皆様とともに患者さんの幸せにつながる地域医療の展開をしていきたいと思っています。これからも、引き続き暖かいご支援をどうかよろしくお願いいたします。

看護部 松浦 幸子





## 2. 寄り添う看護を感じて

看護師 貢 尚子

私は国際医療ボランティア団体ジャパンハートより、離島研修として半年間働かせて頂きました。初めは仕事を覚え、慣れるのに必死で今思うととてもあっという間に半年が過ぎました。

島前病院で働かせて頂き感じたのは、患者様との距離が近いということです。本土では病院はたくさんあり、病院にかかられる患者様も様々で地域から来られますが、ここでは患者様も医療者側も顔なじみで、お互いをよく知っています。院内で「今日はどうしたの?」とか「あの人はどうしてる?」とか、釣りの話やら近況等、まるで世間話をするようにベテラン先輩看護師達が何気なく患者様に声をかける姿や、積極的に関わり患者様と笑顔で話をしている姿がとても印象的でした。だからこそ情報も把握しやすく、患者様に合った方法を考え提案する事ができ、患者様もよく知っている医療者側に意見を言いやすい環境にあるのではないかと思います。院内では、患者様の事で気になることがあれば、看護師だけでなく医師・看護助手・栄養士・リハビリスタッフが参加しカンファレンスをすることもあり、患者様にとってより良い方法を常に皆が考えています。ベテラン先輩看護師の鋭い視線や患者様に関わる姿勢、熱い看護観から、私は“患者様に寄り添う”という事を改めて学ばされました。また、基本的な医療を提供するのではなく、島に合った・患者家族に合った必要な医療を臨機応変に提供しているのも印象的でした。患者様が最期を迎えるとき、患者家族の意思に沿い自宅で迎えられるような手配がすぐに調い、地域密着型だからこそできる、素晴らしいことだと思いました。

初めの頃は方言をなかなか聞き取れず、私は患者様に何度も聞き返してしまいました。しかし、県外出身の私に「どこからきたの」と聞いてくださったり、島のことを教えて頂き、患者様と話す時間が楽しかったです。外を歩けば誰でもが挨拶をしてくれ、島の方の優しさにたくさん触れることができました。人と関わること、話すこと、相手の気持ちに寄り添うことを大事にしていきたいです。

プライベートでも、夏の間に来させてもらったおかげで祭りに参加したりバーベキューを堪能したり、シュノーケルやウェイクボード、たくさん夏遊びをし満喫することができました。“良い時に来たね”とよく言っていただきましたが、本当にそうだと思います。隠岐の夏は本土よりも涼しく、厚いのが苦手な私は例年より夏を涼しく過ごせ、そういった意味でも良い時に来れました。私はこれからミャンマーへ行き医療活動を行います。ここでの学んだこと・感じたことを生かして一人でも多くの方の笑顔を見届けられるよう頑張ります。





### 3. 各部署紹介

#### ① 病棟

看護師 島本 由希子

当院は一般病棟 20床、療養病棟 22 床、計 44 床の小さな病院です。当院のある西ノ島町を含めた島前地区には診療所はありますが、有床病院は当院しかありません。また、専門科に分かれておらず、色々な疾患の方が入院されてきます。年齢層も 0 歳から 100 歳以上の方など幅広いです。

看護師層は若手の看護師よりもその若手のお母さん年齢の看護師が多く、明るく温かい雰囲気の中で仕事をしています。経験豊富なお母さん看護師の看護を間近で見ることができ、本当の地域の病院を知れる環境です。

当院の特徴として、療養病棟があるため看護助手による年に数回の催しが行われます。食堂や病院の外に患者を集め、一緒に手作りのお菓子を食べたり、劇や歌などをします。なかなかベッドから出られない方も笑って手拍子などをしたり一緒に楽しむことができます。一般病棟では感じられない看護助手さんの力を感じます。

また、去年末より病棟看護師による退院後訪問を始めました。当院は訪問看護も行っていますが、外来看護師が行っており病棟看護師が院外に出ることはありませんでした。しかし、病棟看護師も病院の外に出て退院後どのように過ごされているか、内服状態はどうかなどを知る機会として始めました。これは他の病院ではみられないことだと思います。

さらに、地域に密着した病院のため、ターミナルケアを自宅で行うこともあります。もちろん病院で亡くなる方もおられますが、本人や家族が自宅で亡くなりたい、看たいと希望をされれば、本当に死が近い状態であっても自宅へ帰ります。そして、訪問看護・往診を行い、最期を自宅で過ごせるように病院全体でフォローします。

常に何が患者さんにとって良いかをみんなでカンファレンスを行いながら、患者や家族に寄り添った看護をしています。見学などは常に受け入れていますので、興味のある方は実際の島前病院を見に来て下さい。お待ちしております。







## ②外来

看護師 青柳 みゆき

私は友人の勧めもあり、この隠岐島前病院で働くことになりました。5月から働き始め、半年が経ちました。外来には内科、外科、小児科、(精神科、耳鼻科、眼科、産婦人科、整形外科は不定期診療)の診療科目があります。外来看護師は13名で行っており、診療の介助だけでなく内視鏡検査の介助や検査、処置など大きな病院では他職種が担うことも島前病院では看護師が行っていて、私は驚きました。

先輩看護師の言葉で「外来に来ている患者さんはみんな私の受け持ちの患者さんだと思っている」という話を聞きました。どのスタッフも待合で待っている患者さんをいつも気にしており気になる患者さんには積極的に話しかけ、また長い時間待っている患者さんは何故待たせているのか他のスタッフに確認をとったり、診察の後には患者さんの思いをもう一度確認してみたりと常に患者さんの目線で看護をしています。

また業務終了時には外来スタッフ会を行っており気になった患者さんの話し合いや共有した方がよい情報の意見交換を行うことで継続した看護が提供できているのではないかと思います。

私はまだ半年ですが島前病院の愛のある看護に触れることができ本当に来てよかったと思っています。島に来る自信のない方でも研修プログラムや見学もあるため、是非島前病院の看護を見ていただきたいなと思います



## ③薬局

薬剤師のシマザキです。

いきなりですが…薬剤師ってどんな仕事をしていると思いますか?私は薬をつくるって事しか最初頭に浮かんでこなかったです。ここの島に来て4回目の冬を迎えようとしています。いつの間にか病院の仲間も増えました。来て1年目は、薬剤師の仕事って何?と疑問を持ちながらしていました。いろんな人の支えに助けられていく中で2年目はなんとなくですが理想のカタチや自分も「あ~なりたいなあ」と思う目標になる人が見つかった。3年目は、自分の思うまま自由にやりたい仕事(在宅に足を踏み入れたり)をしました。4年目ともなればいい事も悪い事もだんだん“慣れ”が出てきて初心を忘れてるなあと……。初心に思っていた私の目標であるお母さん看護師さんたちがしているように患者さんの笑顔を自然に引き出せたり、患者さんと自然体でいられたらなって気持ちをどっかに置いたまま時間が過ぎていました。まずは人として近づけるように日々まねて近づいて、とことん人と向き合えるここならではの薬剤師になれますように。





## ④リハビリ

先日、以前入院中にリハビリをしていた N さんに再会する機会がありました。その方は病気をきっかけに退院後は隠岐を離れることとなり、「必ず秋には隠岐に戻って、先生達に元気な姿を見せますので！また、お会いしましょうね。」と言って退院し、息子さんたちのおられる本土へ引っ越されました。それから 4 ヶ月ほど経過したある日、N さんから「隠岐に行く日が決まったので、会いましょう。」と電話があり、それをきっかけに久しぶりの再開が実現しました。



N さんは大好きな赤い靴をはいて、全身おしゃれな服でばっちりきめて、退院時と変わらず杖歩行も出来ておられました。再開した瞬間からとても嬉しい気持ちと感動が溢れました。それから N さん、N さんのお嫁さんから今の生活の様子をたくさん聞きながら、入院中はこんなことがあったよねと思ひ出話にも花が咲き、あっという間に時間が過ぎました。N さんは現在もリハビリに通いながら、家の中でも役割を持って料理をしたり、買い物に行ったり充実した毎日を送っているようでした。お嫁さんも N さんがいてくれてとても助かっていますと言われ、N さんも息子さん家族と一緒に住んでいることを心から感謝しておられました。

退院後の生活がどのように送れているか、満足したものであるかは私達のとても気になることです。N さんとの再会のようにリハビリをしたおかげでこんなに元気に充実した生活を送っているという様子を見られることは、何よりも励みになり、やりがいにもなります。隠岐を離れてしまっても、また元気な姿を私達に見せようと思ってくれたこともすごく嬉しく思いました。また、これからも一人でも多くの方が満足した生活を送れるように頑張っていこうと、再度思わせてくれる出来事となりました

## ⑤検査室

隠岐島前病院の検査室では 1 名の臨床検査技師が検査を行っています。行っている検査は、血液検査、尿検査などの一般検査、グラム染色などの顕微鏡を使う検査、輸血時の交差試験、心電図などの生理検査などです。検査技師 1 名なので、夜間・休日などは看護師や医師の方に緊急で行う検査をしていただいています。限られたことしかできませんが、できることはきちんとできるように日々の業務に取り組んでいます。検査技師の職種は一人しかいませんが、あまり孤独は感じません。やさしい看護師長や頼れる院長、事務長のもと日々楽しく仕事ができています。



私が長期休む時に来ていただいた検査技師の方も約半年間島での生活を満喫されたようです。島での暮らしは都会のように刺激は少なく退屈な面、不慣れな面もありますが、自然が好きで島の中にうまく溶け込めた人には最高の生活があるようです。私も今は子育てであまり時間がありませんが、小さな畑とガーデニングがしたいなと思っています。





## ⑥事務



私たち医事係りは、窓口受付、電話対応、会計業務が日々の主な仕事です。ご来院、お電話いただき最初にお話させていただく物として、「親切・丁寧」をモットーに患者さんに寄り添った心遣いに対応ができるよう取り組んでいます。診察に直接関わる事はありませんが、患者さんが安心して受けられるよう、医師・看護師・医療専門スタッフと連携し、チーム医療の一員としてサポートしていけたらと思っています。ご質問・ご要望などありましたら、どんな些細な事でもお気軽にお申しつけ下さい。不安な気持ちで来院された方が来て良かったと感じていただけるような接遇ができるよう頑張りますので、今後ともよろしくお祈りいたします。

## ⑦栄養科



当院の栄養科は栄養士1名と調理員8名で病院給食を作っています。今年には18歳の女の子も仲間入りました。

美味しい食事作りをモットーにしており、食欲不良の患者様にはどうやら食べてもらえるか他職種のスタッフと考えながら臨機応変に食事の形態や種類を変えながら提供しています。

急な入院や食事の変更にも締め切り時間関係なく対応するよう努力しています。

最近では刻み食をなくしソフト食の提供にも力を入れています。

療養病棟では季節によって行事があり、手作りのお菓子も提供しています。

## 4. おわりに

10月の松江の国保学会では院長がランチオンセミナーでトークをしたり、各部署が普段している仕事内容を発表したりと小さな島から発信に力をいれている今日このごろです。

しばらくは寒い日が続きますが(これから本格的な寒さになりますが)、みなさん風邪をひかないように手洗い・うがいをして気をつけて下さい。

12月になればまた病院の催しものも行われますので。次回は、助手さん企画のクリスマス会や離島医療研修者の感想などをお知らせする予定です。

ご期待でお待ち下さい。

だんだんの感想・ご意見があれば、右記の連絡先までお願いします。

今回も最後までお読みいただき、ありがとうございます。

隠岐広域連合立 隠岐島前病院

〒648-0303

島根県隠岐郡西ノ島大字美田 2071-1

TEL 08514-7-8211

FAX 08514-7-8702

MAIL (看護部)

dz-kaigo@asahi.email.ne.jp

